

開催地名	滋賀県 守山市
開催日時	令和6年11月30日(土)9:30~11:00
開催場所	湖南広域消防局 北消防署
語り部	池田 雅彰(大阪府吹田市)
参加者	守山市自治会役員、自主防災組織、守山市消防団員および守山市危機管理課員等 102人
開催経緯	当市では、地域防災力の向上を目的とした自主防災教室を毎年2回開催しており、大規模災害等被災した経験のない当市にとって、上記参加者を対象に、語り部の被災地での経験に基づいた支援に関することや苦勞された点、課題等、講話を聴講することによって防災意識の更なる向上と発災した場合の迅速的確な対処対策に役立てるため。
内容	<p>■はじめに</p> <p>講演者の池田氏は、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震など、過去の大規模災害において消防隊員として救助活動に従事した経験を持つ。今回の講演では、それぞれの災害における現場の状況や課題を振り返り、防災対策の重要性について語った。</p> <p>特に、災害時には行政による公助が迅速に機能しないケースが多く、地域住民同士の助け合い(共助)や個人の備え(自助)が不可欠であることを強調した。さらに、「わがこと意識」を持ち、災害を他人事ではなく自分事として捉えることの必要性についても述べた。</p> <p>■阪神・淡路大震災の経験</p> <p>1995年に発生した阪神・淡路大震災(M7.3)は、6,400人以上の死者を出し、高速道路の倒壊や市街地の大火災など甚大な被害をもたらした。</p> <p>池田氏は、発災10日後に兵庫県須磨区へ消防応援として派遣され、被災地での消火活動支援を行った。現場では、地震の影響で消火栓が機能せず、水槽車の重要性を改めて認識したという。</p> <p>この震災を契機に、日本国内では防災ボランティアや炊き出し訓練が活発になり、国民の防災意識が大きく変化した。</p> <p>■東日本大震災の経験</p> <p>2011年の東日本大震災(M9.0)では、巨大津波により死者・行方不明者が2万人を超え、甚大な被害をもたらした。</p> <p>池田氏は、緊急消防援助隊の一員として、発災37時間後に岩手県大槌町に到着。現場は瓦礫で道路がふさがれており、車両での移動が困難なため、徒歩で被災地に入った。</p> <p>この震災では、津波により多くの建物が流され、消火活動はほとんど必要なかった。阪神・淡路大震災とは異なり、広域にわたる被害と復旧の難しさが課題となった。</p> <p>池田氏は、広域災害では緊急消防援助隊の支援が不可欠だが、到着までに時間がかかるため、発災直後は自助・共助が最も重要であると強調した。</p> <p>■熊本地震の経験</p> <p>2016年の熊本地震(M7.3)では、大規模な余震が続き、土砂災害が多発した。</p> <p>緊急消防援助隊大阪府大隊の吹田市救助小隊長として熊本県に入った池田氏は、土砂災害の現場で手作業による救助活動を行った。地震発生後の二次災害への備えの重要性を痛感し、特に土砂崩れのリスクが高い地域では事前の防災対策が不可欠であると述べた。</p> <p>■「わがこと意識」の重要性</p> <p>近年、異常気象による災害の発生頻度が増しており、誰もが災害に遭遇する可能性がある。池田氏は、災害を「自分事」として捉え、日頃から備えることが重要だと述べた。</p> <p>特に、正常性バイアス(「自分は大丈夫だろう」という楽観的な思い込み)を克服し、最悪の事態を想定した行動を取ることが求められる。災害時には、周囲が避難していなくても率先して避難することが、結果的に他者の避難行動を促すことにつながる。</p> <p>リーダーが率先避難者となることで、地域全体の防災意識向上に貢献できる。</p>

■まとめ

池田氏は、過去30年間で震度7以上の地震が6回発生しており、日本が地震大国であることを再認識する必要があると述べた。

災害時の負傷者を減らし、医療機関の機能を維持するためには、家屋の耐震化や家具の転倒防止など、個人レベルでの対策が不可欠である。

また、災害発生直後は近隣住民同士の助け合いが最も重要であり、自助・共助・公助に加え、「近助」(近隣同士の助け合い)の意識を高めることが必要であると述べた。

最後に、池田氏は「防災は個人だけでなく、地域全体で取り組むことが大切である」と締めくくった。過去の地震災害の経験と教訓を共有することで、防災意識の向上を図り、より災害に強い地域づくりを目指すことが重要である。



開催地より

災害に対する「わがこと意識」をどのように醸成していくか、防災リーダーの早期育成と裾野拡大をどのようにしていくか、守山市の地域特性を鑑みた防災・減災のための事前準備と訓練の在り方など、今後の取り組みについて再認識することができた。